在来マス類種苗生産試験

（アマゴ種苗生産配布事業）

松岡　正義・尾田　文治・寒川　友華
荒木　　茂

平成元年10月に採卵し,繰り越した稚魚を継続飼育し,春稚魚(平均体重4.2g)として4月現在85,000尾を生産した。この内,平成2年5月に河川放流用として45,000尾,養殖用種苗として18,200尾の計63,200尾を有償配布した。

採卵用親魚は,平成元年10月に採卵し,親魚候補用として継続飼育し,平成2年2月にはせっそう病ワクチンの防疫処理を施して10月まで養成した。なお,採卵時における親魚の平均体重は482.5gであった。

採卵には,雌魚1,485尾を使用し,1,464,000粒（1尾平均985粒）の卵を得て発眼卵1,317,000粒（発眼率90%）を生産した。このうち村営養魚場および民間養殖業者に計1,195,000粒を有償配布した（表1)。

小歩危淡水養魚場における飼育水は,現在2水系の水が使用され,この内1号水系は,谷合いの表層水を集めて使用し平成2年4月～平成3年3月における水温は月平均で7.9～16.6℃で変動した。2号水系は,小河川の表層水を取水し,水温は月平均で3.2～21.2℃の間で推移した。水系としては例年同様1号水の方が水温変動も少なく水量的にも安定していた。

表1　平成2年度アマゴ採卵状況

採卵用親魚（雌）	1,485尾
〃　（雄）	395尾
採卵数	1,464,000粒
1尾当たり採卵数	985粒
発眼卵数	1,317,000粒
発眼率	90.0%
養殖用種卵(売却)	1,195,000粒
試験用発眼卵	20,000粒
春稚魚用発眼卵	102,000粒
〃　浮上魚数(12月末)	85,000尾
浮上率	83.3%